

東洋大学におけるGPA制度の導入にあたって

副学長・FD推進センター長 神田 雄一

近年、「教育の質」がさまざまな観点から論じられています。2012年6月には文部科学省による「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」が、同8月には中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」が公表されており、大学は教育の質的転換と質保証の構築に向けて、まさに「待ったなし」の大学改革を求められています。

本学においても、このような動向に対して多様な教学施策を講じて教育の質の向上に取り組んでおり、その一つとして2013年度新学期より全学的なGPA制度の導入を図ることとなりました。今回のGPA制度の導入は、教員と学生が、学習の内容・質についての意識を従来以上に深めていくことにより、単位や成績評価、学位の質自体を保証していくことを目的としています。

そのための第一歩として、学生の学習意欲の向上がありますが、その実行性を高めるためには、GPAを学生の学習指導と連動させることが重要と考えます。学生にGPAの値を示すだけでは十分とはいえず、GPAを利用したきめ細かい学習アドバイスや学習ポートフォリオの活用などの取り組みを進めることによって、学生自身の成績の位置付けの把握と、学習意欲の向上に繋げることが期待できるようになります。

また、履修行動および学習態度の改善さらに成績上位者への豊富な情報提供なども可能となると同時に、成績不振者の早期発見や単位僅少者への学習指導などにおいても従来より早急かつ的確な対応が期待されます。これらについては、全学での取り組みの他にも、各学部・学科独自の運用が考えられますので、有効な利用方法についてご議論いただきたくお願いいたします。

GPA制度は教育の質の向上への一つのツールです。この導入をトリガーとして、学習指導のみならず国際化やキャリア教育などへの展開も考えられましょう。全学FD推進委員会においてもGPA導入後も引き続きフォローアップをしまいる所存です。教員の皆様には本リーフレットをご覧頂きGPAに対して理解を深めると共に学生への教育、教育の質の向上に一層ご尽力いただければ幸甚です。

本学では、2013年度の入学生より、GPA (Grade Point Average) 制度を導入することになりました。本リーフレットは、その概要とともに、導入の背景や、導入の際に検討された内容などをご紹介することで、各先生方にGPAについてご理解いただくことを目的に作成しています。